

氏名	大西秀樹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4208 号
学位授与の日付	平成 22 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Outcome of small liver nodules detected by computed tomographic angiography in patients with hepatocellular carcinoma (肝細胞癌患者においてCTアンギオグラフィーで描出される微小結節の転帰)
--------	---

論文審査委員	教授 金澤 右 教授 吉野 正 准教授 八木 孝仁
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

肝細胞癌(HCC)に用いられる経動脈性門脈造影下 CT(CTAP)と肝動脈造影下 CT(CTHA)は、CT で指摘できない程小さな病変の描出が可能である。しかし偽病変との鑑別に苦慮することも多い。我々はこれら小結節が HCC なのか、そして CTAP/CTHA の適応を明らかにするため CT との比較検討をおこなった。当科に入院した初回発症の HCC 患者 67 症例を対象とした。診断時に CT と CTAP/CTHA を実施し CTAP/CTHA のみで描出された 74 結節について検討した。10 結節は病理学的に、残り 64 結節は画像追跡で評価され、それぞれ 7 結節と 18 結節で計 25 結節(34%)が HCC と診断された。多変量解析では、これら小結節は初回診断時の主腫瘍径が 30mm を超えたとき、有意に HCC と診断されていた。初発 HCC 症例において、腫瘍径が 30mm を超える場合 CTAP/CTHA の適応があることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、肝細胞癌患者の治療前画像評価として行った経動脈性門脈下造影 CT(CTAP)ならびに肝動脈造影下 CT (CTHA) と造影多列 CT(MDCT)を比較して、CTAP ならびに CTHA で描出され、MDCT では描出されない微小結節性肝病変の転帰を調べたものである。対象となった 74 結節のうち 25 結節が超音波下生検あるいは長期経過観察で肝細胞癌であることが確認された。また、多変量解析により、これらの微小結節性肝病変は初回診断時の主腫瘍径が 30mm を超えたときに有意に肝細胞癌として最終診断されることが判明した。これより、初発肝細胞癌症例においては、腫瘍径が 30mm を超えるときに CTAP ならびに CTHA の適応があることが示唆された。本研究が明らかにした結果は、肝細胞癌の治療指針をたてる上で臨床的に有用であり、治療成績向上に十分に寄与できる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。